

令和7年度 三国中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和7年度 三国中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)		平均IRTスコア	
			国語	数学	国語	数学	理科	
3年	学校	272	55	46	6.6	11.1	学校	485
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2	大阪市	489
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6	全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3年	学校	265	68.0	55.1	56.0	52.9	57.8	5.1	4.7	10.4	7.3	5.4
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.1	9.4	6.5
9月2日	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.1	11.0	7.4
2年	学校	263	64.9	47.8	54.9	47.9	51.4	7.4	5.8	10.8	4.3	7.4
	大阪市	—	65.2	45.0	56.0	47.9	52.4	6.6	5.6	10.3	4.2	6.9
1月14日	大阪府	—	64.5	44.3	55.0	46.7	51.8	7.3	6.3	11.7	5.0	7.6
1年	学校	268	65.1	55.2	59.1	53.3	73.1	8.0	3.2	7.3	3.9	2.8
	大阪市	—	63.3	58.3	57.6	63.0	66.5	9.1	3.0	7.6	3.7	4.1
1月14日	大阪府	—	63.1	—	56.7	—	65.2	10.2	—	8.8	—	4.9

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は物理的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択

※ 3年生の理科はB問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日		生徒数 (人)	読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと
			【リーディング】	【リスニング】	【ライティング】	【スピーキング】
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3年	学校	253	125.7	114.7	165.9	104.1
10月14日	大阪市	—	117.4	110.2	146.4	98.4

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトル ラン	持久走 男子1500m 女子1000m	50m走	立ち 幅とび	ハンドボール 投げ	体力 合計点
	225	(kg)	(数)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
2年 男子	学校	26.27	26.98	44.90	50.53	84.57		8.10	194.79	21.91	41.24
	大阪市	28.65	26.89	43.47	51.80	80.14		8.06	195.02	20.28	41.69
	全国	28.95	26.09	45.12	51.64	78.82		8.00	197.51	20.74	42.20
2年 女子	学校	21.85	21.60	44.39	45.79	50.10		9.07	161.56	13.05	47.16
	大阪市	23.12	22.70	46.32	46.59	53.12		9.03	166.76	12.20	48.14
	全国	23.15	21.70	46.99	45.74	50.60		8.97	166.44	12.43	47.58

令和7年度 三国中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

<国語>

全国と比較して平均正答率は0.7ポイント上回った。学習指導要領の領域別の平均正答率は、「言葉の特徴や使い方に関する事項」分野が全国平均を3.9ポイント上回った。「話すこと・聞くこと」分野が全国平均を1.1ポイント下回り、「書くこと」分野が全国平均を0.2ポイント下回り、「読むこと」分野が全国平均を2.9ポイント上回った。設問ごとで比較すると、「文脈に即して漢字を正しく使うことができるかどうか」、「事象や行為を表す語彙について理解しているかどうか」を問う問題など、全国平均を14問中9問で上回った。その中でも、「表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうか」を問う問題については全国平均を6ポイント以上上回った。

<数学>

全国と比較して平均正答率は2.3ポイント下回った。学習指導要領の領域別の平均正答率は、「数と式」分野が全国平均を0.6ポイント下回り、「図形」分野が全国平均を2.7ポイント下回り、「関数」分野が全国平均を3.5ポイント下回り、「データの活用」分野が全国平均を5.5ポイント下回った。全分野で全校平均を下回る結果となったが特に「データの活用」分野の正答率が全国平均を大きく下回っている。設問ごとと比較すると、「事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において、反例をあげることができるかどうか」、「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうか」などを問う問題など、全国平均を15問中4問で上回った。「数量を文字を用いた式で表すことができるかどうか」、「相対度数の意味を理解しているかどうか」を問う問題など、4問で全国平均を5ポイント以上下回った。

<理科>

全国と比較して、平均IRTスコアが18ポイント下回ったが、大阪市平均とは4ポイント下回り、ほぼ同スコアであった。各設問ごとで比較すると、「電熱線の水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身に付いているかどうか」、「【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できるかどうか」を問う問題など、22問中5問で全国平均を上回った。

○チャレンジテスト(3年)

<国語>

大阪府と比較して、平均正答率が3.8ポイント上回った。設問ごとで比較すると、「行書の書き方を理解しているかどうか」、「自分の立場や考えが明確になるように、論理の展開などに注意して話を構成することができるかどうか」を問う問題など、大阪府平均を32問中27問で上回った。その中でも、「文章の内容をとらえ、筆者の考えを理解することができるかどうか」、「場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容の理解に役立てることができるかどうか」を問う問題については大阪府平均を8ポイント以上上回った。

<社会>

大阪府と比較して、平均正答率が3.9ポイント上回った。設問ごとで比較すると、「大化の改新について理解しているかどうか」、「土地の標高について、地形図から読み取れる情報をもとに考察することができる」を問う問題など、大阪府平均を39問中32問で上回った。その中でも、「院政について理解しているかどうか」、「世界の工場について理解しているかどうか」を問う問題など3問で大阪府平均を10ポイント以上上回った。

<数学>

大阪府と比較して、平均正答率が2.1ポイント上回った。設問ごとと比較すると、「変化する数量の特徴を捉え、グラフに表すことができるかどうか」、「度数分布表の階級の幅を理解しているかどうか」などを問う問題など、大阪府平均を33問中23問で上回った。その中でも、「箱ひげ図から範囲と四分位範囲を読み取ることができるかどうか」を問う問題については大阪府平均を10ポイント以上上回った。

<理科>

大阪府と比較して、平均正答率が6.9ポイント上回った。各設問ごとで比較すると、「音の伝わる速さを求め、花火が開いた位置から人のいる位置までの距離を計算により求めることができるかどうか」、「減数分裂について理解しているかどうか」を問う問題など、大阪府平均を30問中29問で上回った。その中でも、「太平洋プレートについて理解しているかどうか」、「親の遺伝子の組み合わせと子に現れる形質について考えることができるかどうか」を問う問題など5問で大阪府平均を10ポイント以上上回った。

<英語>

大阪府と比較して、平均正答率が4.6ポイント上回った。設問ごとで比較すると、「与えられた情報に基づいて、指示された語数で正しい英語を書くことができるかどうか」、「話や文法事項等を理解して、正しい文を書くことができるかどうか」を問う問題など、全国平均を35問中34問で上回った。その中でも、「短いやりとりを聞いて話し手の意向を正確に理解し、会話の続きとして適切な応答を選択することができるかどうか」を問う問題については大阪府平均を10ポイント以上上回った。

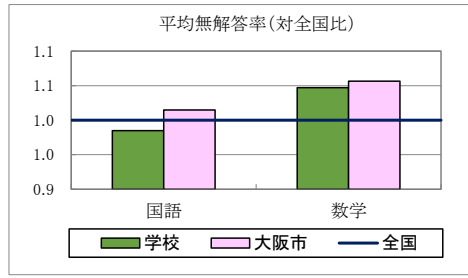
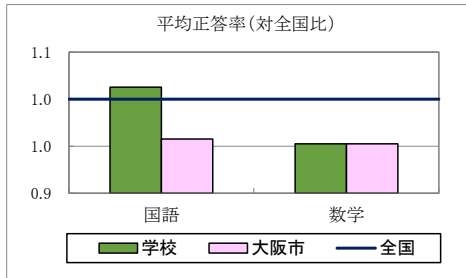
令和7年度 三国中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【 全 体 】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	55	46
大阪市	52	46
全国	54.3	48.3

	平均無解答率(%)	
	国語	数学
学校	6.6	11.1
大阪市	6.8	11.2
全国	6.7	10.6

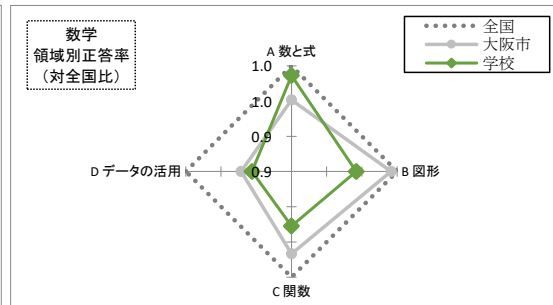
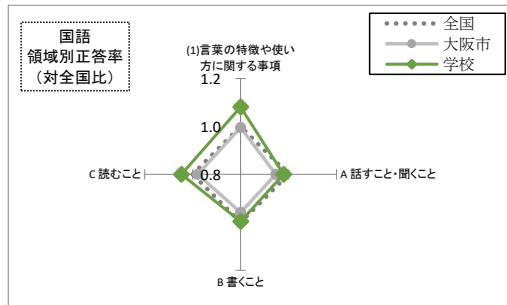
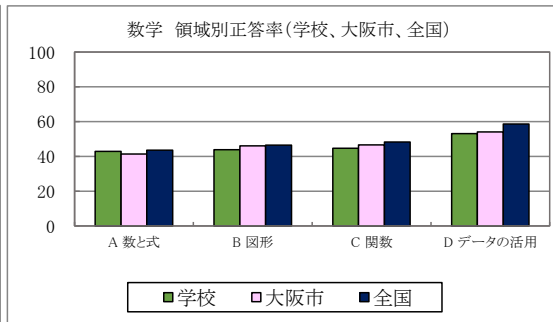
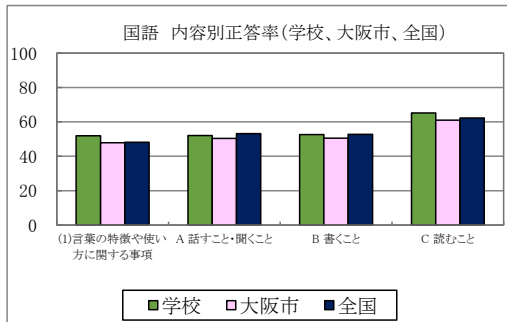


【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	52.0	47.9	48.1
(2)情報の扱い方に関する事項	0			
(3)我が国の言語文化に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	4	52.1	50.4	53.2
B 書くこと	5	52.6	50.6	52.8
C 読むこと	3	65.2	61.0	62.3

【 数 学 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	42.9	41.4	43.5
B 図形	4	43.8	46.1	46.5
C 関数	3	44.7	46.6	48.2
D データの活用	3	53.1	54.0	58.6

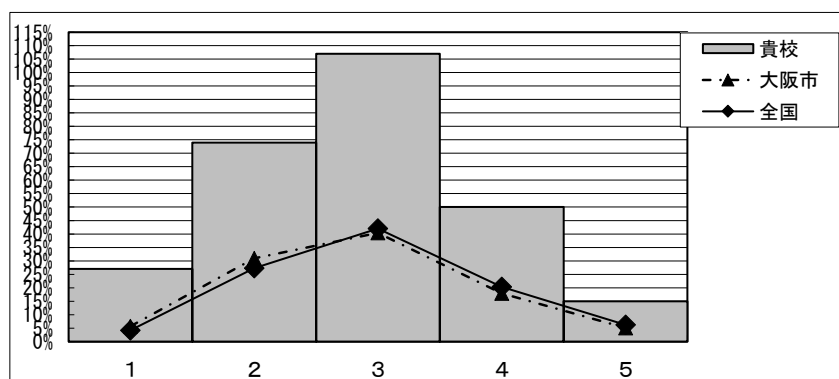
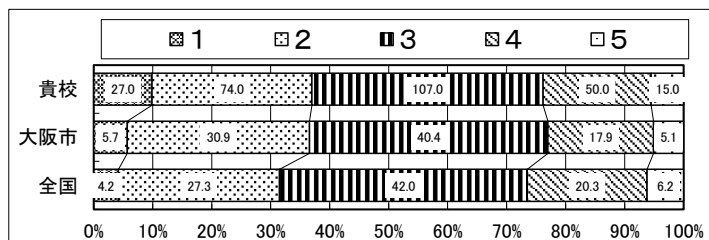


令和7年度 三国中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【理科】

	平均IRTスコア
学校	485
大阪市	489
全国	503



令和7年度 三国中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

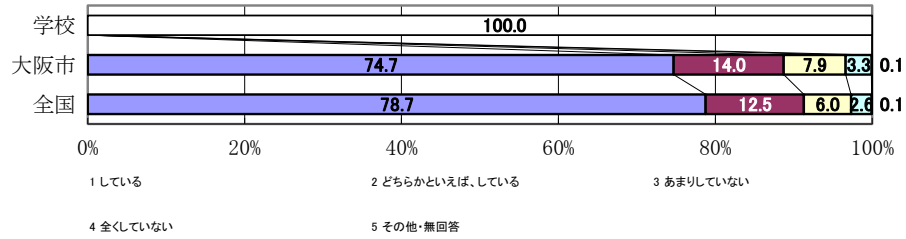
生徒質問より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号
質問事項

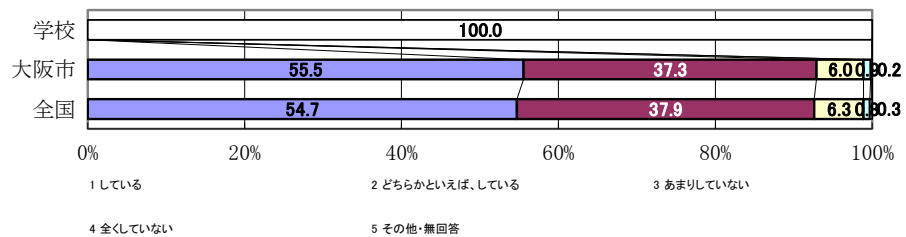
1

朝食を毎日食べていますか



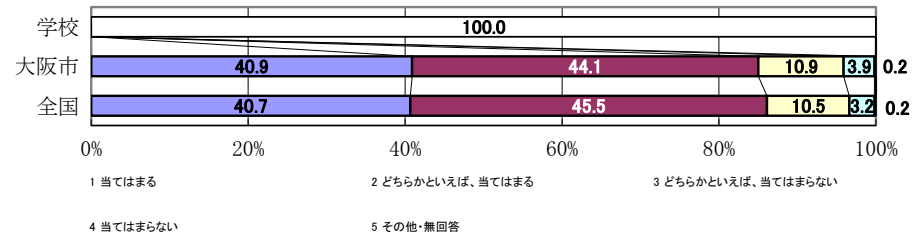
3

毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



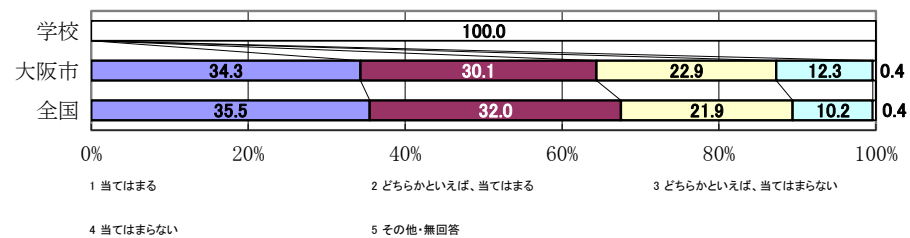
5

自分には、よいところがあると思いますか



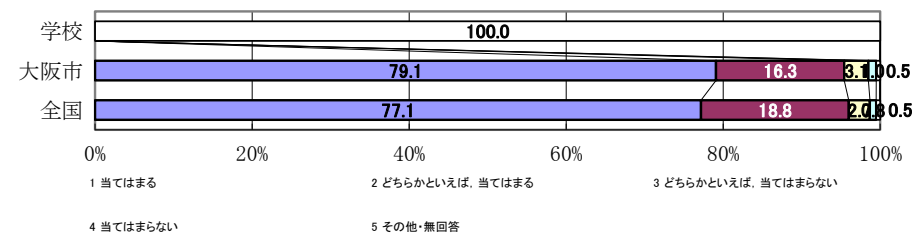
7

将来の夢や目標を持っていますか



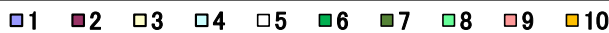
9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



令和7年度 三国中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

学校質問より

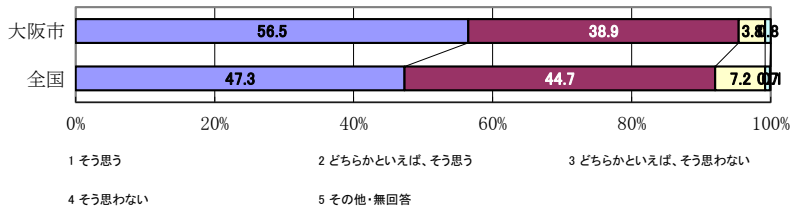


質問番号
質問事項

8

調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

学校「1」を選択

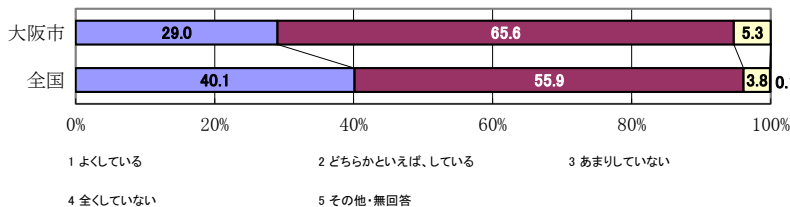


1 そう思う 2 どちらかといえば、そう思う 3 どちらかといえば、そう思わない
4 そう思わない 5 その他・無回答

15

生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか

学校「1」を選択

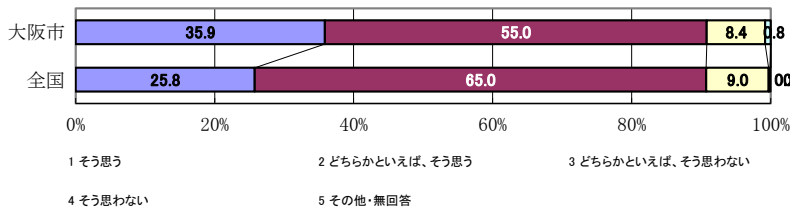


1 よくしている 2 どちらかといえば、している 3 あまりしていない
4 全くしていない 5 その他・無回答

27

調査対象学年の生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか

学校「1」を選択

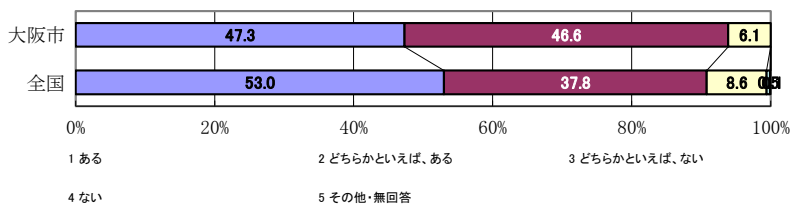


1 そう思う 2 どちらかといえば、そう思う 3 どちらかといえば、そう思わない
4 そう思わない 5 その他・無回答

56

教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会はありますか

学校「1」を選択

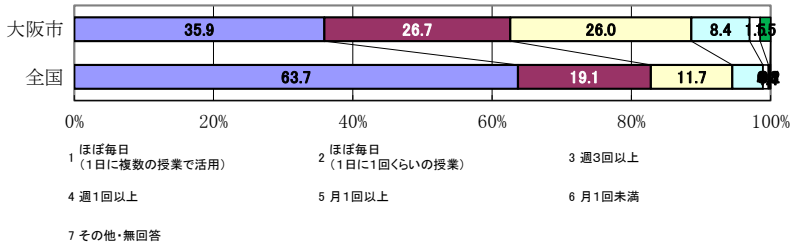


1 ある 2 どちらかといえば、ある 3 どちらかといえば、ない
4 ない 5 その他・無回答

58

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

学校「1」を選択



1 ほぼ毎日 (1日に複数の授業で活用) 2 ほぼ毎日 (1日に1回くらいの授業) 3 週3回以上
4 週1回以上 5 月1回以上 6 月1回未満
7 その他・無回答